

令和 2 年 7 月定例

伊達市教育委員会 会議録

令和 2 年 7 月 8 日開催

令和2年7月定例伊達市教育委員会会議録

1. 開催日時 令和2年7月8日（水）13時30分～
2. 開催場所 伊達市役所東棟3階 庁議室
3. 出席者 教育長 菅野 善昌
1番 高野 保夫 委員（教育長職務代理者）
2番 菅野 千恵子 委員
3番 三品 重郎 委員
4番 関根 勝富 委員
4. 欠席委員 なし
5. 説明のため出席した者
教育部長 田中 清美
教育総務課長 土田 一紀
生涯学習課長 森林 敏昭
学校教育課長 熊澤 正人
こども部長 橘内 重康
こども支援課長 寺田 和也
こども育成課長 桃井 秀孝
6. 本委員会書記
教育総務課総務企画係長 富田 昭子
教育総務課総務企画係主事 大橋 勝

7. 日程1

○菅野教育長 令和2年7月定例伊達市教育委員会会議を開会します。本日は全員出席しているため、会議が成立しました。開会時刻は13時30分です。

8. 日程2

○菅野教育長

会期決定についてお諮りします。会期は、本日8日にしたいと思います。異議ありませんか。

【委員より異議なしの声あり】

○菅野教育長 異議なしと認め、会期は本日 8 日と決定します

9. 日程 3

○菅野教育長 議事録署名の指名に移ります。本日の議事録署名は、3 番三品委員と 4 番関根委員をお願いします。

10. 日程 4

○菅野教育長 本日の会議の進め方について、土田教育総務課長から説明をお願いします。

○土田教育総務課長 会議次第により説明

1 議 事

議案第26号 伊達市社会教育委員の委嘱について

議案第27号 伊達市梁川城跡調査指導委員会委員の委嘱について

議案第28号 伊達市公立小・中学校管理規則の一部を改正する規則について

2 協議

- 1 5月下旬の学校・園再開以降の幼・小・中の児童生徒の生活、学習、体力面での特徴的な傾向、問題点、今後に向けての課題等について
- 2 学校再開後の感染症防止に伴う教職員の様々な心理的負担の現状と今後の対策について
- 3 携帯電話の持ち込みを中学生に許可してもよいという文科省の指示内容と伊達市としての対応について
- 4 教育委員会の会議録の作成のあり方について
- 5 第1回総合教育会議の議題・内容について

3 報告

11. 日程 5

○菅野教育長 傍聴希望の方はいますか。

○富田総務企画係長 いません。

12. 日程 6

○菅野教育長 「議案第26号 伊達市社会教育委員の委嘱について」生涯学習

課長から説明します。

○森林生涯学習課長 資料により説明

○菅野教育長 議案第26号について、委員の質疑をお願いします。

○高野委員 岡崎邦広さんはどの学校のPTA会長か。また高野順子さんはどこの婦人会会長か。

○森林生涯学習課長 岡崎さんは梁川中学校PTA会長、高野さんは保原町婦人会会長である。

○菅野教育長 他になければこれより採決に入ります。本案は原案のとおり決することに異議ありませんか。

【委員より異議なしの声あり】

○菅野教育長 異議なしと認め、「議案第26号 伊達市社会教育委員の委嘱について」原案のとおり可決されました。

次に「議案第27号 伊達市梁川城跡調査指導委員会委員の委嘱について」生涯学習課長から説明します。

○森林生涯学習課長 資料により説明。

○菅野教育長 議案第27号について、委員の質疑をお願いします。

○三品委員 梁川城は何年を目安に調査の結論を出すのか。

○森林生涯学習課長 今後整備計画は未定のため、明確になっていない。

○高野委員 今後のスケジュールはどの様になっているのか。

○森林生涯学習課長 今手元に資料が無いため、後程伝える。

○菅野教育長 他に質疑はありますか。

質疑なしと認め、質疑を終結します。

これより採決に入ります。本案は原案のとおり決することに異議ありませんか。

【委員より異議なしの声あり】

○菅野教育長 異議なしと認め、「議案第27号 伊達市梁川城跡調査指導委員会委員の委嘱について」原案のとおり可決されました。

次に「議案第28号 伊達市公立小・中学校管理規則の一部を改正する規則について」学校教育課長から説明します。

○熊澤学校教育課長 資料により説明

○菅野教育長 委員の質疑をお願いします。

質疑がなければ、質疑を終結します。

これより採決に入ります。本案は原案のとおり決することに異議ありませんか。

【委員より異議なしの声あり】

○菅野教育長 異議なしと認め、「議案第28号 伊達市公立小・中学校管理規則の一部を改正する規則について」原案のとおり可決されました。

13. 日程 7

○菅野教育長 協議に移ります。高野委員からお願いします。

○高野委員 学校訪問の機会があった。学校によっては適度な間隔を空け、感染症防止を強く意識しているクラスや、普段通りの席順で授業を行っている学校があり、危機意識に差があるように感じる。現在は臨時休業を経て学校は再開し、これから夏季休業に入る時期だが、生活のリズムが昨年までとは異なるように感じた。

学習面で中学1年生と話したが、授業が特に面白くないと言っていた。何か授業で問題や課題、変化があるのではと考える。

転倒し骨折する子ども達が増加していると報道されていた。臨時休業中に運動不足だったため、学校再開後、顕著に現れてくる。これらの子ども達の様子について意見交換をしたい。

○菅野教育長 学校再開後の生活学習・健康安全面について話を頂いた。これらについて学校教育課長からお願いします。

○熊澤学校教育課長 生活学習面では特に低学年で集中力が続かない傾向が見られた。また放課後児童クラブへも行ったが、家に帰りゲームがしたいなどの生活の乱れが見られ、少数ではあるが不登校児童も出現した。概ね落ち着いた授業態度が見られるが、特別な支援を必要とする児童の中には落ち着きが

見られない、コントロールできないとの事例の報告もある。中学校では指導困難な生徒が出ているという報告はない。授業が面白くないという意見が子ども達から出てくる原因として、授業の遅れを取り戻すために急ぐ傾向があるのではと感じる。また中学に入ると教師主導型の授業になり、不慣れな部分もあるのではと思う。

学習面は学校再開当初、意欲的に学習に取り組む姿勢が見られた。1ヶ月経ち、疲れが見られる。各教科の差はあるが、8月末までに遅れを取り戻せる見込みが立っている。また授業内容を詰め込み過ぎない様、進路、内容を工夫し学習指導を進める教員の姿が見られた。中学校では6月末から期末考査を実施した。

体力面は頻繁に怪我をすることも達の報告があった。体育の授業では適度な休憩、こまめな水分補給に配慮、適宜マスクを外すなどの対応が取られている。部活動は段階的に再開している。代替大会も全て中止となったが、野球、バスケットボール、剣道、卓球などは協会主催の大会を実施する予定。協会主催大会がない場合は2、3校で練習試合を行い、3年生の活動に区切りをつける部活もある。6月13日以降は通常通り部活動を行っているが大きな事故等の報告はない。

○菅野教育長 他に委員から意見はありますか。

○菅野委員 先日地域の小学校訪問の際は、1年生が2年生に連れられ、校内の見学をしていた。子ども達の楽しそうな様子が見られた。学校再開後、例年の学校生活とは異なるため、保護者に調査をしたところ、就寝時間が遅く、起床困難。食べる量が多くなった。機嫌が悪い。ゲームをする事が習慣になっている。少数だが寝小便をしてしまう子どもがいるという回答があったと学校から説明を受けた。この結果を踏まえ、学校全体で個別面談を実施し、子どもと先生が会話を通して緊密になるよう工夫をしている。学習の遅ればかりに着目せず、子ども達の心のケアを優先し、学習を進めている。不登校児童は新たに出現していないが、今後出現の可能性があるので、疑わしい子どもには配慮をするという事であった。

他校の小学1年生では、家庭学習の結果によって学習の差が出てきている。未就学児に説明会が昨年10月頃に行われたが、その際に幼稚園、保育園からこども達の資料が届くが、気になる子どもは個別面談をする。入学し学校生活が始まると、幼稚園、保育園と更に緊密に連携を取り成長が遅れている子どもの情報が把握できていれば、違った対応が可能であったという意見がある。小学1年生へ心身の成長には、友達や教員との関わり合いなど、学校環境も大きく影響してくる。臨時休業があり心身の状態が例年の7月の状態には達していな

いと感じた。

小さな怪我をする子どもや喧嘩をする子どもが多くなっている。協調性が培われておらず、臨時休業の影響が出ていると感じる。

○菅野教育長 例年であれば4月に家庭訪問、PTA総会があり、保護者と担任が顔を合わせる機会があった。しかし6月になっても保護者、担任間で顔も分からない状況である。そのため、特別の配慮が必要な子どもの対応が困難であったと思われる。

これらの点で先日の学校長期首面談等で出た具体的な内容などがありますか。

○熊澤学校教育課長 教員、保護者ともにお互いの顔を把握していない関係をどのようにするかという点は、懇談会という形で、6月末や7月に実施するところもある。大規模校では9月以降に実施予定。学校によっては教員の写真や担任からのメッセージをホームページに掲載しているところもある。

○菅野委員 幼稚園の現状や今後の取り組みについてお願いします。

○桃井こども育成課長 園再開当初は登園後に泣いてしまう子どもが多かったが、現在は落ち着いている。園の行事、園外の活動を1学期中は制限をしている。再開直後は給食の際に密を避けるため、教室を分散させていたが、園児からみんなで食べたいという要望もあり、テーブルに仕切りを置いて給食の時間を過ごしている。各園で園内活動を工夫している。

○菅野教育長 小学校、幼稚園の説明を踏まえ委員から意見はありますか。

○三品委員 現在の課題に対して、教員は改善しようと努力しているが、教員だけでは人手不足だと感じる。行政としてサポートするべきなのではないか。

○熊澤学校教育課長 国では補正予算を組み、全ての学校にスクールサポートスタッフ配置計画をしているが、人員が不足している。出来る限り早急に、各校に1人だが配置していく予定。

例年行っている行事が縮小、中止となっている。水泳の授業は事前に健康診断を受けていないため、実施しない。教員が行う業務を取捨選択し負担軽減できるよう、これからも指導していく。

○桃井こども育成課長 大人数の幼稚園では、消毒作業が職員の負担になって

いる。認定こども園は、職員の人数が多いため負担は少ない。負担が大きい幼稚園は教育支援体制整備補助金を活用して業務委託を行い、職員の負担軽減を検討している。

○高野委員 3密を避けるため、授業参観を見送っている。小学1年生と2年生以上の学年では、状況が異なると感じた。2年生以上は担任と保護者の意見交換はできているが、1年生は現在できていない。1年生は保護者と教員が意見交換をする場を設けるべきではないかと思う。

○菅野委員 特に1年生は学習や生活リズムが定着していない。学校に行くが楽しくない。学校のイメージがそのように捉えられているように思われる。

スクールサポートスタッフ配置の話があったが、人手が不足している状況だが、経験がある者や元教員などを配置してほしい。

○菅野教育長 本来であれば無駄だと思うことを子ども達に体験させることは、心の成長のため大切であると改めて感じた。学校不適應の子どもを生じさせないように、教員が危機感を持つ必要がある。

○関根委員 子どもの声を聞くと、学校ではマスクをしなければならない、消毒をしなければならないなどのルールがあり、つまらないという気持ちにさせていると思う。また臨時休業中はオンラインで友達と繋がり、ゲームをしていた。学校よりゲームで友達と遊ぶ方が楽しいという状態になっている。臨時休業により子ども達の環境が変わってしまったと思う。

○菅野教育長 委員の意見を踏まえながら、子ども達、保護者へ配慮し対応していかなければならない。

○菅野委員 今年度の夏季休暇は18日間と例年より短くなる。作品展、夏休みの友、日記などの宿題は例年通り行うのか。短い夏季休暇の過ごし方について、行政として考えはあるのか

○熊澤学校教育課長 具体的な指示は各学校へ出していないが、本来であれば休んでいる時期に学校に来るため、子どもの負担を考えた夏季休暇にしてほしいと指示をしている。今後委員から頂いた意見を各校長へ助言していく。

○菅野教育長 次に学校再開後の感染症防止に伴う教職員の様々な心理的負担

の現状と今後の対策について、高野委員お願いします。

○高野委員 現在感染症対策として、机や椅子など多くの人が手を触れる場所の消毒作業が教員の負担になっている。給食の配膳なども教員が行うケースがある。各授業でも3密を避けるため配慮しなければならない。中学3年生は受験を、小学6年生は中学への進学を考え指導をする必要がある。授業計画を見直し工夫をしなければ遅れを取り戻すことはできない。修学旅行についてなど様々な事が教員の負担になっている。現状を踏まえながら、どのような対策を捉えれば、教員の心の負担軽減につながるのか。

○熊澤学校教育課長 学習計画の調整をするため、教材の精選、重点化を行っており、本来であればドリルでの学習により定着を図ることを宿題にするなどの対応をしている。不登校傾向の子どもについては保護者に連絡し、学校の会議で方針を確認しながら実施していく。

消毒作業は子ども達の下校後に30分ほどかけて実施している。中学校では保健委員が教室の共用部分を消毒するなど、生徒の協力を得ながら実施しているところもある。マスクの着用、3密を避けるように促すなど指示を出している。

検温、健康観察は家庭での協力を依頼し、検温が出来なかった子どもについては非接触型体温計で実施。

臨時休業による学力の差が出てきている。学習に遅れのある児童生徒は、個別対応に努めている。教員自身も感染に対する不安を持ちながら働いている。

調理実習、音楽の発声については、制限していたが、6月16日以降は実施している。英語教諭は、必要に応じマスクを外し、口の形を見せる対応を許容。

教職員研修は、希望者のみ実施としている。時間外勤務が80時間を超える教職員については、校長へ健康管理の依頼と産業医へ診断依頼をしている。校長会と協議しながら教員の負担軽減を図りたい。

○菅野委員 前回の教育委員会会議で、全校で教員のストレスチェックを実施し、希望者には医師の診察を受けることができるとあったが、診察を受けた事例はあったか。

○熊澤学校教育課長 事例はまだない。公立学校共済という保険組合で、電話による無料相談を受付している事を教職員に周知している。

○三品委員 これから第2波、第3波が来た際の対策は、現在感染が落ち着いているこの時期に考えるべきであると思うが、オンライン授業などの準備状況

はどのようなになっているのか。

○熊澤学校教育課長 来年は1人1台のタブレット端末を用いた学習が可能になる。現在できる対応を考えているが、学校ホームページに宿題のやり方や考え方をアップしている。本市の強みであるeライブラリーは各生徒にIDとパスワードを配布し、パソコンとインターネット環境があれば自宅で学習ができるソフトである。また臨時休業になった際はパソコン、インターネット環境がない子ども達のため、学校のパソコン室を開放することを考えている。

○菅野教育長 臨時休業中は学校間で取り組みなどを情報交換する余裕はなかった。eライブラリーを活用した事例などを積極的に発信し、学校で情報を共有することが重要である。また国の補正予算、県の事業の中で学校のハード面に関わる支援は積極的に受け、現場を支えていく。

次に携帯電話の持ち込みを中学生に許可してもよいという文科省の指示内容と伊達市としての対応について、高野委員からお願いします。

○高野委員 新聞記事では文部科学省から登校後は携帯電話の電源を切るように指示があったと掲載されていた。しかしルールに従わない生徒は出てくる。またいじめの問題や犯罪に巻き込まれる事も懸念される。本市としての方針を示すべきではないかと思う。

○菅野委員 携帯電話を子どもに持たせると、災害時や、送迎での連絡に役立つと思う。しかし学校教育では特別必要ではないと考える。むしろ便利さが故に、いじめや犯罪に結び付く心配が生まれる。

○三品委員 私は学校へ携帯電話を持参することに賛成。理由は日本のデジタル教育の普及が先進国の中で最も低いからである。問題が多いという理由で、新たな事を取り入れなければ遅れてしまう。問題を解決しながら導入することが必要であると考え。また最先端の携帯電話の活用の仕方を教えていく事も教育の1つであると考え。

○関根委員 現在も中学生の中には送迎の連絡をするために学校に携帯電話を持ち込んでいる生徒はいると思う。国が携帯電話の持ち込みを許可する事で保護者、子どもから様々な意見が出ることは予想される。

○熊澤学校教育課長 本市の小学生・中学生を対象とした調査事例はないが、

小学生3割、中学生5割が保有していると推測している。文部科学省が6月24日に携帯電話等の取扱いによる第1回有識者会議を開催し、その中で中学校では原則禁止としつつ、携帯電話の持ち込みを認めることは妥当であるとされた。理由は緊急時に使用するためとしている。個人的考えだが、学習の妨げ、ネットいじめ、授業風景を盗撮しインターネットへ流出などの問題が生じうる。授業の妨害やテスト中のメール交換なども考えられる。教員は紛失盗難などを気にかけなければならない。

活用する方法を教えることは非常に重要であると考えている。デジタル先進国の学生は、必要な情報を集めて、自分の情報の発信を行っている。学校の授業では1人1台タブレット時代になる。活用の仕方について子ども達に教育をしていきたいと考えている。

○菅野教育長 校長時代に生徒の携帯電話は持ち込み禁止にしていた。理由は契約を保護者が行い、料金も保護者が支払っているからである。トラブルが起きた際に責任を誰が取るのかという問題が生じる。また特別な事情があり、相談されたこともあったがルールを決め、学校側も保護者、本人側も納得できる形で対応した。今後パソコン、タブレット等の使い方やモラルを指導していく事が必要になってきた。改めて慎重に検討していく必要がある。

次に教育委員会の会議録の作成のあり方について高野委員お願いします。

○高野委員 5月臨時教育委員会会議を教育長へ要請した。そして臨時教育委員会会議当日に会議の趣旨について説明をした。政府からの急な休業要請、延長、再開後2度目の休業要請。このことに対して教育委員会で議論する場が必要だと感じたが、時間がなく開催出来なかった。今後休業要請にあたり、様々な問題がある。教育委員会としての方針をまとめるうえで協議の場が必要であると感じ、他の委員にも連絡を取り、私が代表して教育長に臨時教育委員会会議を要請した。という内容だったが、会議録では2行にまとめられているため、趣旨説明が欠落している。会議録の中で教育委員の発言の趣旨について正しく記述してほしい。今年度から短くまとめられすぎて、発言の経緯、背景が書かれていないと感じた。

6月定例教育委員会会議の会議録では、「新地町はICT支援員を配置している。機器操作を有効に活用するために支援員確保をしてほしい」と記載されている。私が話した内容は、新地町に電話をかけ事情を聴き、人材をどの様に確保しているのかを確認したところ、ALT教員を派遣している事業所にICT支援員も委託し、派遣してもらっており、相馬市、南相馬市も同様の方法を取る。本市も同じ方法でICT支援員を確保するべきではないかという趣旨である。しかし2行で

書かれてしまうと趣旨が欠落しているため会議録としては不十分であると感じた。会議録を読むと会議の実際の様子が伝わってくる会議録を作成してほしい。

5月の定例教育委員会会議ではホームページについて発言した。閉校となった学校がそのままリンクに残っているが、今回閉校となった日付も記載されており改善されていた。しかし肝心のカテゴリー一部分に現在は無い文化課、社会教育が存在し、生涯学習課の記載がない。また教育委員会は教育部、こども部で構成されているはずだが、こども部の記載がない。教育部、こども部の大きな2つの柱が見えているべきだと思う。先月もホームページの改善について教育長にお願いしていたが、カテゴリーの変更について改善がされていない。今後、改善してほしいと思う。

○菅野教育長 ホームページの改善については、改めて事務分担をしながら今後より良いものにするという事を確認した。今後早急に改善を図っていきたいと思っている。

会議録作成について意見があったが、発言の背景や趣旨を残してほしいというお願いと捉えたいと思う。教育委員会の協議というより事務の進め方に関わってくるため、今後改善していったほしいというお願いと受け止めさせてほしい。

○高野委員 法律で会議録は公開されなければいけないと定めがあり、それに基づき発言をしている。会議録はその場の雰囲気が分かるものを作成しなければならない。

○菅野教育長 教育委員会の会議録の作成のあり方についてこの場で意見を出し合い協議するのではなく、私たちもこの意見を受け止め、今後改善していく。高野委員の意見に反対の人はいないと思うため、議論は必要ないのではないかなと思う。協議ではなく要望として受け止めさせていただきたい。

○高野委員 昨年度までの会議録を読んでいたが、今年度に入り簡略化されており、発言の背景が不明な場合が多い。第三者が読んだ際、発言の経緯が捉えづらい会議録になっている。より良い会議録とはどうあるべきかを意見を出し合い議論をするべきと考え、協議として挙げた。

○田中教育部長 頂いた内容で会議録を改善していく。また事前に会議録を送付しているため、意見が反映されていない、言い方を変えてほしいという場合は指摘していただきたい。今後は趣旨に基づく会議録を作成していく。

○菅野委員 会議録は公開されているため、読者もいる。以前の教育委員会は活発に意見が交わされている、とお褒めの言葉をいただいたことがある。以前の会議録は、雰囲気は分かったが、今年度の会議録は要約されているため、会議の流れとして伝わってこない。会議に参加していない者も流れが分かる記述の仕方にしてもらいたい。

○三品委員 以前の教育委員会会議の会議録は議事のみであったが、今年度は協議も記録している。どの部分を会議録と指すのか。

○田中教育部長 伊達市教育委員会会議規則があり、ここに記載されている。第18条に記載事項という項目がある。会議録には概ね次の事を記載しなければならない。

- (1) 開会、散会、休講及び閉会の年月日並びに時刻
- (2) 議事日程
- (3) 出席及び欠席委員の氏名
- (4) 会議に付議した事件の題目及び内容
- (5) 議決事項及びその要点（議案）
- (6) 教育長の報告の要旨（報告）
- (7) 請願及び陳情の処理
- (8) 選挙及び表決の次第（結果）
- (9) 全各号に掲げるもののほか、必要と認めた事項

議事、報告の部分は規則で会議録に記載するとなっている。協議も4月から追加されたが協議も会議録に含めて問題はない。

議会では議事録として記録している。会議録のように要約されたものではなく、答弁した通りに記録される。要旨をまとめたものが会議録であると考えている。今後頂いた内容で改善していく。

19条に会議録は、次の会議においてその承認を受けなければならない。とあるが今まで通り事前に会議録を確認していただくのか、会議中に承認を得るのかは今後検討する。

○菅野教育長 次に第1回総合教育会議の議題・内容について。教育総務課長お願いします。

○土田教育総務課長 前回の会議で委員から意見を頂き、市側として議題を決定した。1つ目は学習力向上のための施策として、ICTを活用した取り組み。読

書活動の推進について。2つ目に地域の元気を活かす取り組みとして、地域おこし支援員。スクールコミュニティ（以下 SC）について。これらの議題について委員から意見を頂きたい。

○田中教育部長 補足であるが案を2つずつ挙げたが、例えば ICT を活用した取り組み、読書活動の推進という切り口から各委員から様々な意見を出してもらえればと思う。

○高野委員 市長部局と教育委員会が協議をする事は重要な場であると考え。以前、教育委員会として示された方針を基に予算を決めると言われた。そのため今年重点的に進める政策はどれなのか。政策を具体化するためには、どのような人材が必要なのかなど、議論し総合教育会議で示すべきだと思う。今年度の教育要覧を見ながら、今年度重点的に進めるべき政策を示し協議に臨むべきである。

○土田教育総務課長 改定を進めている教育振興計画が各課において定まっておらず、教育要覧の準備はまだできていない。

○高野委員 教育要覧を見ながら、本市の令和2年度教育委員会最大の重点施策を把握したうえで、総合教育会議に臨まなければ最低限の基準は満たしていないのではないかと。

本日「次世代の図書館で育む判断力」という資料を用意した。地球の一員として物事を考えるためにも読書が必要である。これからの次世代を担う子ども達には図書館に通い、自分で本を選び、身体を通して判断力を養う事を大切にする必要があると記載されていた。梁川小学校が文部科学省大臣賞を受賞した。司書の配置に取り組んできた教育委員会の成果であると思う。子ども達の考える力、考えを発信する力を育むためには、活字文化に触れることが重要だと考える。「次世代の図書館で育む判断力」を総合教育会議の資料としてほしい。

○菅野教育長 重点施策を2つ挙げると、学力向上のための施策と地域の元気を活かす取り組みである。伊達市の学校教育のあり方を考えた際、霊山地区の学校教育が大きな課題である。子ども達の学びの場であると同時に、地域コミュニティの拠点としての二面性がある。学校統合をすれば子ども達の学びの場は1つになるが、地域コミュニティを確保することが難しくなる。地域の資源を十分活用し、教育に活かしていきたい。総合教育会議は予算について、人材確保について、教育環境整備についてなどの側面もある。しかし本市が現在の

課題として、若者に定住してもらうにはどうするか、地域の活性化を図るにはどうするかという事に、教育委員会としてどのように関わるのかを話す場でもある。

○菅野委員 掛田小学校の改築工事が7月で完了し、掛田幼稚園に SC が入る。活動が各地域で異なり、内容が明確に見えない。地域の取り組みを活かす活動になっていないのではないかと思う。

○田中教育部長 5つの地域が同じことをやるのではなく、地域の実情に応じた活動が必要。学校を媒体として地域の方との繋がりも各地域で異なると思う。保原、梁川 SC 活動が見えていない部分もあり、教育委員会として今後発信が必要だと感じた。

小学生の段階で地元に着愛を持ってもらい、今の私があるのは地域の人に育ててもらったからという事を学んでもらいたい。

○高野委員 保原、梁川 SC 活動を振り返り、評価をし、その結果霊山での活動はどのような方針にするのか。また、月館との差別化はどのように図るのか。私が市長であればこれらの部分を聞きたい。教育委員会として構想を持ち、進めていく事が必要である。保原、梁川 SC 活動の反省を早急にすべきと感じる。

三品委員は梁川 SC にどのような印象を持っていますか。

○三品委員 梁川 SC 活動についてよく分かっていない。保原、梁川 SC の成り立ちも異なる。

○田中教育部長 SC 活動は地元の歴史、生活等を学ぶことが主になる。SC がない場合は、教員が地元で詳しい人を探し、講師をしてもらう。SC では地元の歴史、生活等に詳しい人をリストアップしており、学校と地元の懸け橋となり。教員の負担軽減にもつながる。

梁川 SC では伊達市合併 10 周年の際にオラトリオを結成し、その中に児童合唱団のパートがある。今までは音楽の教員の繋がりによって参加児童を募集してきたが、霊山地域を除く 4 地域の児童で昨年合唱団が結成されたことは梁川 SC の取り組みの成果である。

今後の課題は人材確保であると感じる。

○森林生涯学習課長 昨年の保原 SC において学校授業支援に関わった方は 784 名。活動内容は花壇整備、除草作業、図書整備、各種行事に関わる支援をして

いただいた。学校の施設利用者は 33,557 名に利用していただいている。

○高野委員 なぜ国が進めるコミュニティスクールではなく、本市は SC なのかをまとめた報告書が保原小学校にあると思う。教育委員会として報告書を基に各地域の SC 理念を固める必要がある。予算、人材確保が関わってくるため、このままでは市長部局と対等に議論ができない

○寺田こども支援課長 習志野の秋津では子どもが少なく、小学校の空き教室が増加したため、地域と連携しコミュニティスクールの活動を開始した。しかし学校、地域の方、学識経験者らからなる組織をつくらなければならない。このことに縛られてしまうと地域との連携が不十分になるという懸念があったため、本市は SC とした。

○菅野教育長 他に委員から意見はありますか。

○三品委員 市長は教育に対しどのような考えを持っているのか聞いてみたいと感じた。教育委員会からの議題だけでは一方通行になってしまうのではないか。

○田中教育部長 最初に本市の取り組みを市長に話してもらう事も可能である。コミュニティスクールは地域と共に学校があり、学校運営に関わる地域の人々の活動であり SC は学校を媒体として地域づくりも同時に行っていくということである。月舘は SC で学習支援の方法を重点的に考えていきたい。最終的には地域が望むことを協議しながら運営を考えている。

○三品委員 市長が会議に参加するため、教育委員会だけでは完結困難な課題を取り上げ、方針を立てられればと思う。

○高野委員 議題案は良いと思うが、項目が短くまとまっているため、趣旨が伝わるような題にしたほうが良いと感じる。

○菅野委員 地域おこし支援員は教育委員会の管轄なのか。また地域おこし支援員は学校教育にどのような関わりを持っているのか。

○田中教育部長 地域おこし支援員は市民協働課の管轄である。総合教育会議で教育の枠を超え、地域の元気を活かす取り組みの 1 つの話題として挙げた。

○菅野委員 地域おこし支援員やSCは具体的な活動内容、成果などの報告資料がなければ分かりづらい。各地域で目標や、地域との関わりが異なると思う。

○田中教育部長 地域おこし支援員は1つの話題として挙げる。SCについては事前に報告資料を配布する。

○菅野教育長 総合教育会議の議題は趣旨が分かりやすいように変更する。

14. 日程 8

○菅野教育長 教育長報告

令和2年度 7月定例教育委員会会議 教育長報告資料

令和2年7月8日(水)

1 1学期を終えて・・・そして今後の課題
学習の進み具合、授業時数だけにとらわれるのではなく子ども達の現状を把握し対応するべき

- (1) 新型コロナウイルス感染症予防対策(国の緊急事態宣言等)を受けた臨時休業中における各園、各学校の適切な対応・・・各家庭との連携、幼児・児童・生徒の現状把握
- (2) 新型コロナウイルス感染症予防対策と学びの保障の両立を図る学校経営

[本市の子どもたちに実現したい姿]

- ① 各種の疾病や災害に対して正しい知識を持ち
- ② 正しい情報を収集・選択しながら
- ③ 自らの主体的な判断に基づいて行動し
- ④ **自分の命と健康は自ら守る。**

指示待ちにならず、子ども達が自ら考え行動できるように指導していく

- (3) 弾力的な教育課程管理と年間を見通した教育活動の見直し
- (4) 児童生徒に達成感や自己有用感を味わわせる場の確保と指導の工夫
- (5) 温かみややりがいを持てる学校・職場の雰囲気づくり

2 学校の適正規模・適正配置事業

(1) 霊山地区の小学校(大石小学校、石田小学校、小国小学校)

- ① 令和2年2月 6日(木): 各小学校のPTA代表者及び学校代表者への説明会

- ② " 2月20日(木): 大石小学校保護者・教職員への説明会

- ③ " 6月 5日(金): 石田小学校保護者・教職員への説明会

- ④ " 6月 9日(火): 小国小学校保護者・教職員への説明会

※ 各学校の実情に応じた統合 ⇒ 大石小学校保護者からの早い段階での統合の要望

※ 令和2年6月12日(金): 大石小学校保護者会から同意書の提出あり

(今後は、大石地区民を対象にした説明会の開催)

※ 大石小学校と掛田小学校の児童の交流の場の工夫

- (2) 霊山地区の新しい学校のあり方について検討 ⇔ 未来の伊達市の学校のあり方
- 3 保原総合公園簡易宿泊所「とまっぺ」の管理運営事業及び通学合宿体験活動事業
 - (1) 開所式
 - 令和2年7月12日(日) 午前10時から
 - [愛称「とまっぺ」命名：菅野琥太郎(掛田小5年)]
 - (2) 通学合宿体験活動事業
 - 新型コロナウイルス感染症の影響により本年度は実施しない。
 - (3) 施設の管理運営(新型コロナウイルスに係る市のイベント開催に関する指針に準じた営業)
 - ① 供用開始 令和2年8月1日(土)
 - ② 利用者
- ※ 宿泊：県内在住の5～24名の団体[宿泊室定数の半数]・・・調理室は当面利用不可
 - (団体、学校等を越えた感染拡大を防ぐため予約は先着1組のみ)
 - ※ 日帰り利用：10:00～14:00(感染防止への協力を依頼)
 - ③ 建築許可要件のため公園利用者のみの利用
- 4 待機児童解決に向けた認定こども園の整備
 - (1) 保原認定こども園の早期着手
- 5 令和3年度使用教科書の採択事務(令和2.3.27付 文科省通知)
 - (1) 小学校用教科書
 - 全て現在使用しているものと同一の小学校教科用図書を令和3年度も使用する。
 - (2) 中学校用教科書
 - 全ての教科書について新たに採択を行う。
 - ※ 現在二本松市教育委員会が事務局となって、採択事務を推進中。(調査員：未来の本県教育を担うリーダー発掘の場としても生かしたい。)
 - ※ 各市町村教育委員会は、令和2年7月31日(金)までに採択を決定。
- 6 その他
 - (1) 6月教育長の部屋・・・・・・・・・・・・・[資料1]
 - (2) 第2回伊達市各園長、小・中学校長会議資料・・・・・・・・・・[資料2]
 - (3) 学校だより、新聞報道等から・・・・・・・・・・・・・[資料3～12]
 - (4) その他

○田中教育部長 6月定例議会報告を資料により説明

○橋内こども部長 6月定例議会報告を資料により説明

○菅野教育長 各課からの報告をお願いします。

○土田教育総務課長

7月22日(水) 13時30～ 総合教育会議

総合教育会議終了後に7月臨時教育委員会開催。

8月27日(木) 令和2年度教育委員教育長研修会

○森林生涯学習課長

7月12日（日）10時～ とまっぺオープニングセレモニー

議案第27号、梁川城跡調査の今後の計画、委員の任期について報告する。
梁川城跡は史跡公園として整備していく。しかし保存活用計画が策定していなければ具体的な整備に入ることができない。国の補助を活用しながら計画していく。当初は7月末に文化庁へ訪問し協議をさせていただきたいと伝えた。梁川城跡の具体的な保存活用計画、岩地蔵遺跡の追加指定も協議していきたい。
令和3年度に補助金交付申請を行い、令和4、5年の二か年計画で保存活用計画を策定していきたい。委員の任期についても計画が完成し、具体的な整備が開始できるまでは再任させていただきたい。

○熊澤学校教育課長

6月16日（火）16時30～ 市長報告（梁川小学校読書活動）

7月31日（金）市立小・中学校第1学期終業式

8月19日（水）市立小・中学校第1学期始業式

○桃井こども育成課長

7月20日（月）市立幼稚園第1学期終業式

夏季休業は例年通り8月24日（月）まで

7月17日（金）14時30～ 読み聞かせ研修会

○寺田こども支援課長 保原認定こども園整備授業について 資料説明

○田中教育部長 6月定例教育委員会で質問があった各地区交流館の非接触型体温計、消毒液についての回答。自宅で体温計測後の利用を想定しているため、設置していない。今後は製品が流通し始めているため、設置を検討中。消毒液は家庭用漂白剤を薄め、手指消毒を目的とするのではなく、テーブル等の備品消毒に使用している。

○菅野教育長 次回の日程について事務局よりお願いします。

○土田教育総務課長 総合教育会議

日時 令和2年7月22日（水）13時30分～

会場 庁議室

終了後 7月臨時伊達市教育委員会会議

○菅野教育長 本日の7月定例教育委員会は、16時52分で終了します。

15. 日程9 閉 会 16時52分

上記記録の正確なことを認め、ここに署名する。

令和2年7月8日

議事録署名人

3 番委員

4 番委員

議事録調製者 教育総務課総務企画係主事 大橋 勝